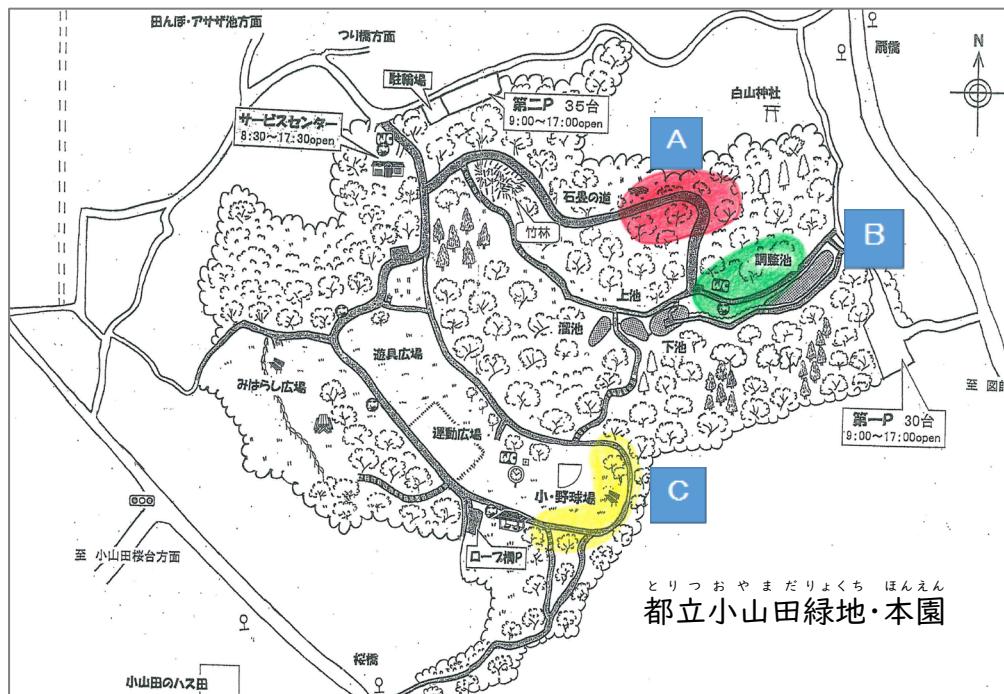


2025年 セミのぬけがら調査結果

まちだエコライフ推進公社は2016年から毎年夏に3回のセミのぬけがら調査を都立小山田緑地でおこなっています。2025年は調査開始から10年目の調査になりました。2025年の3回の調査で集めたぬけがらの数は合計415個でした。これは10年間の調査で2番目に少ない数です。2020年以降、ぬけがらの数は少しずつ減少傾向にあります。調査地の状況によって、ぬけがらを探すことが困難になることもあるため（草丈が高すぎる、蜂の巣があり危険、など）ぬけがらの数が少ない=セミの数が減っていると断定することはできません。しかし小山田緑地では2020年ごろから、ナラ枯れの被害が広がっており、調査地でも樹木の伐採がありました。調査中に観察したところでは、ナラ枯れの被害を受けた樹木にはあまりぬけがらが見つかりませんでした。環境の変化や毎年の猛暑の影響がセミの生態にどのような影響をもたらすのか、引き続きモニタリングをしていきたいと思います。

調査地について

都立小山田緑地は、町田市北西部の自然の豊かな丘陵地にあり、本園と三つの分園からなっています。セミのぬけがら調査は本園（下図）のABCの調査地でおこなっています。



調査地 A

昔からの里山で、一部クヌギなどの植栽がある。地面はほぼ一面下草に覆われているが、日当たりが良く、明るい場所。

調査地 B

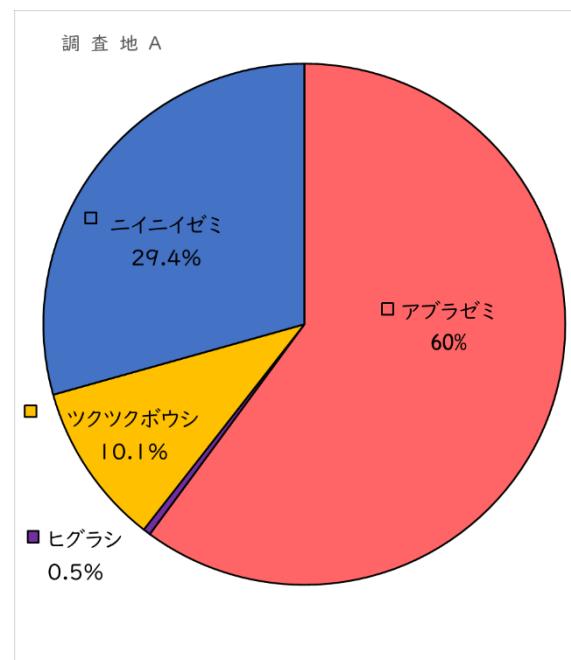
昔からの里山で、近くに池がある。調査を開始したころは、全体的に湿気が多く、薄暗かったが、樹木が伐採され日当たりがよくなり、地面が乾燥した箇所が増えた。下草で覆われた部分と、地面が露出した部分がある。

調査地 C

昔からの里山と整備された植栽が両方ある場所。ほぼ一面下草や落ち葉に覆われている。草丈は調査日によって大人の背丈ほどになっている日もある。

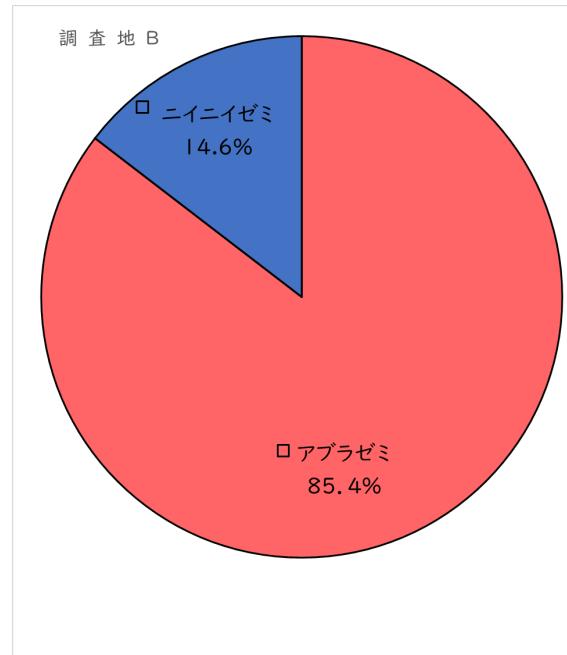
調査地 A の結果

しゅるい 種類	オス・メス	7月25日	8月8日	8月27日	計
アブラゼミ	オス	10	47	19	76
アブラゼミ	メス	0	19	31	50
アブラゼミ	不明	0	1	4	5
アブラゼミ	計	10	67	54	131
ミンミンゼミ	オス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	メス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	計	0	0	0	0
ヒグラシ	オス	0	0	0	0
ヒグラシ	メス	0	0	1	1
ヒグラシ	計	0	0	1	1
ツクツクボウシ	オス	0	2	12	14
ツクツクボウシ	メス	0	0	8	8
ツクツクボウシ	計	0	2	20	22
クマゼミ	オス	0	0	0	0
クマゼミ	メス	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	45	14	5	64
合計	計	55	83	80	218



調査地 B の結果

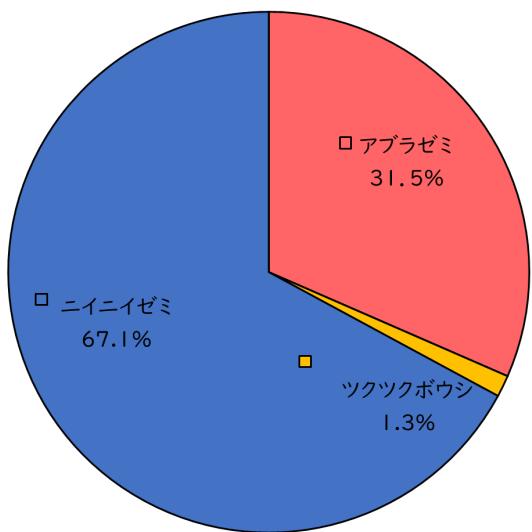
しゅるい 種類	オス・メス	7月25日	8月8日	8月27日	計
アブラゼミ	オス	13	18	1	32
アブラゼミ	メス	0	3	6	9
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	計	13	21	7	41
ミンミンゼミ	オス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	メス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	計	0	0	0	0
ヒグラシ	オス	0	0	0	0
ヒグラシ	メス	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
ツクツクボウシ	オス	0	0	0	0
ツクツクボウシ	メス	0	0	0	0
ツクツクボウシ	計	0	0	0	0
クマゼミ	オス	0	0	0	0
クマゼミ	メス	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	3	3	1	7
合計	計	16	24	8	48



調査地 C の結果

種類	オス・メス	7月25日	8月8日	8月27日	計
アブラゼミ	オス	1	22	11	34
アブラゼミ	メス	0	7	6	13
アブラゼミ	不明	0	0	0	0
アブラゼミ	計	1	29	17	47
ミンミンゼミ	オス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	メス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	計		0	0	0
ヒグラシ	オス	0	0	0	0
ヒグラシ	メス	0	0	0	0
ヒグラシ	計	0	0	0	0
ツクツクボウシ	オス	0	0	1	1
ツクツクボウシ	メス	0	0	1	1
ツクツクボウシ	計	0	0	2	2
クマゼミ	オス	0	0	0	0
クマゼミ	メス	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	77	21	2	100
合計	合計	78	50	21	149

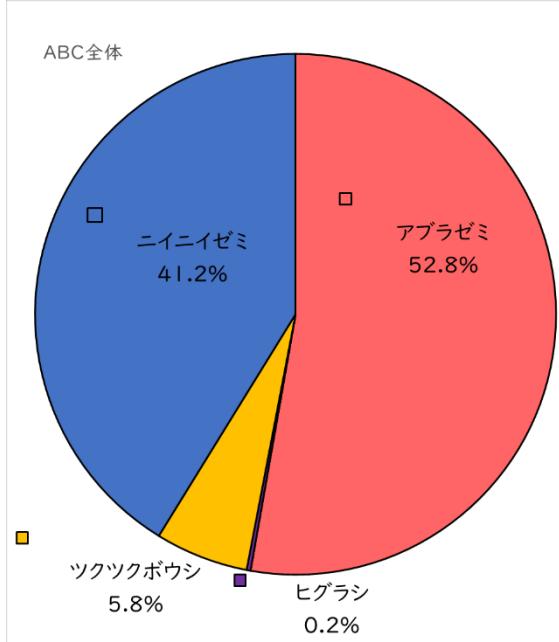
調査地 C



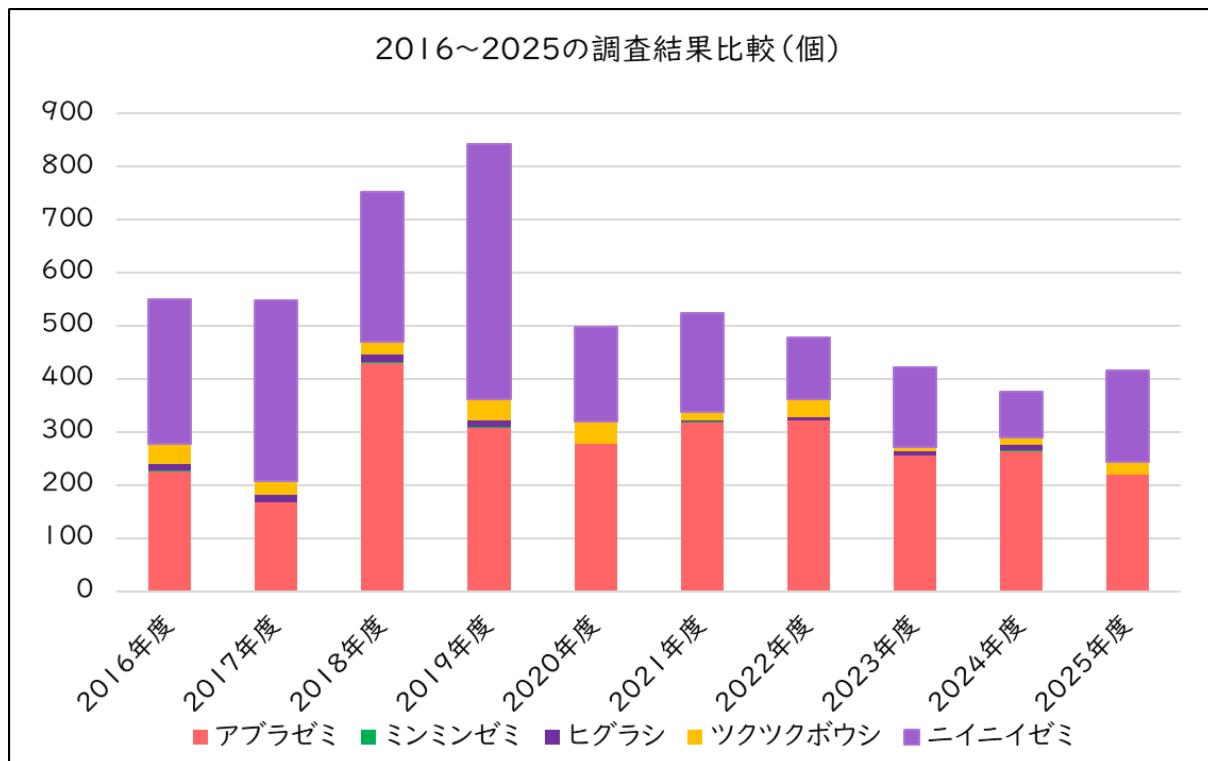
全体の結果

種類	オス・メス	7月25日	8月8日	8月27日	計
アブラゼミ	オス	24	87	31	142
アブラゼミ	メス	0	29	43	72
アブラゼミ	不明	0	1	4	5
アブラゼミ	計	24	117	78	219
ミンミンゼミ	オス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	メス	0	0	0	0
ミンミンゼミ	計	0	0	0	0
ヒグラシ	オス	0	0	0	0
ヒグラシ	メス	0	0	1	1
ヒグラシ	計	0	0	1	1
ツクツクボウシ	オス	0	2	13	15
ツクツクボウシ	メス	0	0	9	9
ツクツクボウシ	計	0	2	22	24
クマゼミ	オス	0	0	0	0
クマゼミ	メス	0	0	0	0
クマゼミ	計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	計	125	38	8	171
合計	合計	149	157	109	415

ABC全体



2016年～2025年の推移



	ア布拉ゼミ	ミンミンゼミ	ヒグラシ	ツクツクボウシ	ニイニイゼミ
2016年度	226	2	11	39	272
2017年度	167	1	13	26	340
2018年度	430	2	13	24	283
2019年度	307	2	13	39	481
2020年度	277	0	1	42	177
2021年度	318	1	3	15	187
2022年度	321	1	5	34	117
2023年度	256	0	7	9	149
2024年度	263	2	11	14	86
2025年度	219	0	1	24	171

2025年のまとめ

全体的に鳴き声が少ない印象だった。特にアブラゼミが少ないように感じた。

2024年はニイニイゼミの数がこれまでで一番少なかった。2025年は2024年の約2倍の数になった。

2025年はミンミンゼミのぬけがらは見つからなかった。クマゼミの声の確認は一度だけだった。

2025年の調査は台風の影響が一度もなく、3回の調査とも地面が乾燥していた。

例年の調査では昼間でもヒグラシの鳴き声が聞こえたり、成虫を見かけていたが、2025年の調査ではヒグラシのぬけがらが一つもみつからず、鳴き声も一度しか確認できなかった。調査地の日当たりがよくなつたことや、地面が乾燥していることが関係しているのかもしれない。

調査当日の様子。気がついたこと。鳴き声の聞こえたセミ。

1回目(2025年7月25日)

A: 鳴き声 ニイニイゼミのみ。地面がカラカラに乾いている。

ニイニイゼミは地面に落ちているものと木の幹についているものの半々くらい。

B: 鳴き声 ニイニイゼミ。ヒグラシ一頭の鳴き声が一度聞こえた。アブラゼミの成虫確認。

トイレがある側の草が大人の背丈くらいになっており、抜け殻を探すのが困難。

調整池は完全に乾いており、地面も乾燥している。

C: 鳴き声 ニイニイゼミ、少ない。運動場横あずまやの近くの林からミンミンゼミの一頭鳴き。

あずまや近くのヤマボウシの木の幹とその周りの地面にニイニイゼミの抜け殻多数。以前はコナラの植栽でたくさん見つかっていたものが移動してきたのだろうか？ 新しくコナラが植えられているので、今後どう変化するのか注視していきたい。



調査地 C コナラの植栽 2016



調査地 C コナラの植栽 2025

2回目(2025年8月8日)

A: 鳴き声 調査開始時(9時35分)はニイニイゼミのみ。9時50分ごろから、時折ツクツクボウシの鳴き声が聞こえるようになった。地面は乾燥しており、落ち葉や枯れ木が多く落ちている。抜け殻は木についているものより、地面に落ちているもののが多かった。例年ほとんどぬけがらが見つからない生け垣の方で4個見つかった。

B: 鳴き声 アブラゼミのみ。ヒグラシ成虫を確認。

トイレ側は草刈をしてだったので、前回よりぬけがらを探しやすかった。

C: 鳴き声 運動場側、ニイニイゼミのみ。あずまや側、アブラゼミ。遠くでミンミンゼミ。

11時半ごろ、一度だけクマゼミの鳴き声を確認。ぬけがらは草や笹についているもののが多かった。

3回目(2025年8月27日)

A: 鳴き声 ツクツクボウシの声が多い。アブラゼミ少しだけ。

B: 鳴き声 鳴き声少ない。ときどきミンミンゼミとアブラゼミ。

C: 鳴き声 ニイニイゼミ、アブラゼミが少し。ときどきミンミンゼミ。